

# 尾瀬

(おぜ)

位置：北緯36度53分、東経139度11分／標高：1400～1420m(湿原部)、1665m(尾瀬沼)、2356m(最高地点)／面積：8711ha／湿地のタイプ：高層湿原、淡水湖／保護の制度：国立公園特別保護地区、特別地域／所在地：福島県檜枝岐村、新潟県魚沼市、群馬県片品村／登録：2005年11月

湿地のタイプ：高層湿原、淡水湖



ミズバショウの咲く尾瀬ヶ原

## 湿地の概要：

「夏が来れば思い出す はらかな尾瀬 遠い空…」と歌われる尾瀬は、その広大で美しい景観により、日本人にもっともよく知られた、日本を代表する湿原である。尾瀬は、首都東京から北へ約140kmの群馬、新潟、福島の前3県にまたがる、本州最大の高層湿原である。周囲を燧ヶ岳(ひうちがたけ)、至仏(しぶつ)山など2000m級の山々に囲まれた盆地状の底に、西側の標高1400m付近に尾瀬ヶ原、東側の標高1600m付近に尾瀬沼が広がり、燧ヶ岳の北側には御池田代(みいけたしろ)の湿原がある。

尾瀬は、積雪が4mを超える豪雪地帯にあり、1年の半分以上を雪におおわれる。そのため植物が枯死しても分解されず、泥炭となって積み重なり、低層湿原から中間湿原へ発達し、やがて地表面が盛り上がり、降水や霧だけで涵養される貧栄養性の高層湿原へと遷移してきた。

尾瀬は2007年、日光国立公園から分離され、独立した尾瀬国立公園となった。

## 尾瀬ヶ原と尾瀬沼：

尾瀬ヶ原は面積約760ヘクタールの本州最大の高層湿原で、ホロムイヌゲ、ツルクケモモ、ミカヅキグサ、ワタスゲ、ニッコウキスゲ、ミズバショウなど多様な湿原植物の宝庫である。尾瀬沼は燧ヶ岳の噴

火によってせき止められた周囲9km、面積約184ヘクタールの湖で、カタシャジクモなどの希少な植物が多数生育している。

尾瀬ヶ原、尾瀬沼への登山コースはいくつも整備され、湿原には木道が完備、容易に日本一の湿原景観を楽しむことができる。尾瀬沼東端と尾瀬ヶ原西端のビジターセンターのほか、山小屋や宿泊施設も多数完備している。

## 湿原を守る努力：

毎年シーズン中は列をなす入山者のため、尾瀬保護財団などが中心となって、マイカーの規制、入山マナー・ゴミの持ち帰り指導、山小屋・トイレの排水処理対策、湿原の植生復元などのさまざまな保全、管理対策を講じている。

日本の登録湿地の多くは国有地、公有地だが、尾瀬の登録面積8711ヘクタールのうち6277ヘクタール、72%は民間企業の所有地である。電力会社が発電用取水のために所有していたものだが、ダム計画は中止となり、湿原が守られた経緯がある。

【ミズバショウ】白くて大きな(8～15cm)仏炎苞をもつ、サトイモ科の植物。湿原に群生し、雪解けのころ花を開き、春のおとずれを告げる。「ミズバショウの花が咲いている 夢みて咲いている…」と尾瀬のシンボルになった。

## ●関係自治体

檜枝岐村役場 Tel: 0241-75-2503

<http://www.hinoemata.com/>

魚沼市役所 Tel: 025-792-1111

<http://www.city.uonuma.niigata.jp/>

片品村役場 Tel: 0278-58-2111

<http://www.vill.katashina.gunma.jp/>

